



自転車社会の環境改善を目指して No.36

自転車で楽しむ カナダ ケベックシティ

文

特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会 会員
横浜交通まちづくり協議会 理事/インディペンデントライター 中村 利恵

事務局：〒 141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル 4 階
TEL 080-3918-2932
URL <http://www.cyclists.jp/>



自転車に優しい街として知られ、世界のトップ10に入っているモントリオールがあるケベック州、そこに次いで人口が多いケベック・シティは私にとって第二の故郷となっている。旧市街(オールド ケベック)はユネスコ世界遺産に登録された城壁に囲まれている都市があり、ヨーロッパを感じる街並みが楽しめる。紅葉の季節の“メイプル街道ツアー”などで知られているが、自転車での楽しみ方として一部ではあるが文化や自然も含めて紹介したい。日本における自転車の環境改善へのヒントがあると思う。

ケベック・シティ

ケベック州はフランス語が公用語で、英語が通用するモントリオールと比較してケベック・シティはケベックア(ケベック人)と言われるフランス語を母国語とした人たちが大半を占める。フランス語といっても、パリなどで話している言葉とは若干違い「Oui (Yes)」というだけでケベックアとわかってしまうらしい。

人口は55万人で東京の杉並区、板橋区と同等。世界に準じて高齢化は進んでいるがベビーブームもあり、人口が年々雇用とともに増加している。住宅が足りないため、市街地へ



写真1 自転車が積めるラピッドバス

の開発、商業地区の再開発などの計画が進行している。

公共交通は主にバスで、通常の低床バスの他に郊外向けに運行する2連結のラピッドバス(自転車を積めるようになっている)や市内向けに電気で動くエコバスもあるが、まだまだ充実しているとは言えず、日中の通勤などは多くの人がマイカーに頼っている。しかしダウンタウンに住む学生などは、道路網が限られていることで発生する朝夕の道路渋滞を回避するため、自転車で移動する人たちも少なくない(写真1)。

広大なセントローレンス側に面し、自然も豊かなこの場所は、冬は曇りや吹雪が長く、摂氏マイナス40度、積雪も4m近くなる。7、8月が夏のピークで日中は30度を超える日も多いが、夜は一桁代の気温まで下がることも多く、ドライで過ごしやすい。また夏は夜9時ごろまで明るい。

夏が満喫できるサイクリング

夏はケベックアにとって待ちに待った季節。1年分の太陽を浴びようと人々は外に出る。そしてあらゆる場所で自転車に乗る人たちの姿を見かけるようになる。週末は自転車を積んで自然の中で過ごす車が道路を連なり、競技選手と思われるライダーも道路各地で走行練習している。ちなみにUCI WorldTour Grand-Prix Cycliste de Quebec という自転車競技が9月に開催されている。

自転車専用通行帯は市街地を入れて400kmあり、広大なセントローレンス川に沿って、または山や丘からの眺めを満喫しながら自転車を楽しむことができる。ケベック州、各プロバンスを連結する自転車専用道路のネットワークは5,000kmを越すということだ。

ルートマップや情報もネットなどでも入手でき、自転車専用の宿泊所や休憩所なども各地に点在、ルートも明記した専用のガイドブックもある。

レンタルショップが数箇所あり、ガイド付のツアーや、ダウンタウンや郊外の滝をみるコースなどが用意されている(写真2 写真3)。



「自転車検定」を始めました

インターネットで、いつでも受験できる「自転車検定」サイトを設けました。無料のお試し検定も行っています。自転車活用推進研究会のホームページ(<http://www.cyclists.jp/>)からどうぞ。



写真2 レンタサイクル店



写真3 その向かいの港にあるマーケット

サマーフェスティバル

夏の風物詩としFestival D'été De QUEBECという7月初旬に開催されるサマーフェスティバルがある。音楽やストリートアート、パフォーマンスなど400を超えるイベントやショーが11日間通して開催され170万人の観客が訪れると言われている。

子どもたちも無料で楽しめるイベントもあり街中で日夜旧市街地を中心に賑わいが絶えない。無料イベントといってもクオリティが高く、市制400周年を記念したイベントでは、ケベック出身のシルクドソレイユ設立者、ギー・ラリバルテが穀物サイロの壁面に世界最大657mの3Dプロジェ

クションマッピングやシルク・ドュ・ソレイユのパフォーマンスショーが連日開催されるなどがあった。

フェスティバルのメインにあたるロック、ブルース、ピップホップなどの音楽の祭典は芝生が一面に広がるアブラハム平原で開催され、約8万人規模の収容を持つ。料金は92カナダドルのピカピカ光るピンバッチを購入するだけでいつでも好きな時に行ける。前の方でも盛り上がることも、ピクニック気分でシート持参で後方で寝転びながら見ることもできる。メインの有名アーティストとして、一昨年はポール・マッカートニー、昨年はレディー・ガガ、ビリー・ジョエル、ブライアン・アダムス(なんとブロンディが前座)、今年はミック・ジャガーで、まさに7月15日に開催され、入場制限がされたほどの人出だったようだ(写真4)。

コンサートが始まる夜の7時半、人々は一斉に現地を目指す。道路網が限られるため、渋滞が発生するし、駐車場探しの車も連なる。その脇をスイスイと自転車を通る。日本では見られないスタイルの自転車も滞っている車の横をのんびり追い越していく(写真5)。見ていて楽しい光景だ。余談だがケベックアはフレンドリーだ。初対面でも気さくに話し始める。コンサートの仮設トイレで並んでいてもお互いに話し始めてしま

うし、子ども連れでいくと、ステージの前列に子どもを入れてくれたりする。もちろんフランス語なのでカジュアルに話せたらもっと楽しいだろうと思うのだが。

島でのサイクリング

セントローレンス川の中に、シードルの産地で有名な大きなオルレアン島や小さな無人島などでいくつかの島が点在している。橋がある島もあるが、通常は自動車も自転車も乗せられるボートが運行されている。観光客向けに島で自転車を借りて周遊することもできる。昨年、グロス島(Grosse-ile)で自転車を借りた。手入れもされていない自転車が盗難防止用にチェーンでつなげ、無造作に並べられてるだけ。“自分で気に入ったのを乗ってね”と食堂のおばさんがいうだけの気軽なものだった。しかし島でのサイクリングは風と陽射しと水辺、ひろがった大地を満喫できるのどかな時だった。

ケベックの道路は冬の寒さの温度差により、アスファルトの道路環境は決して良いものとは言えないが、文化を味わえる街並みや自然を堪能できる場所としてはお勧めしたい。多少言葉は通じなくても人懐っこいケベックがフレンドリーもてなしてくれる。 PP



写真4 フェスティバルの様子(2014年)



写真5 フェスティバルへ向かう人



写真6 Grosse-ileのレンタサイクル

※ケベックでの自転車のルールや罰則などについて、細かく掲載されている安全ガイド(第7版 フランス語)がダウンロードできるのでよかったらご覧ください。
http://www.saaq.gouv.qc.ca/publications/prevention/guide_velo.pdf